

槇尾川ダム 意見陳述

意見陳述者

リバーポリシーネットワークといいまして、海外の河川政策を日本にできるだけ伝えようと考えております。

槇尾川の地点でも、私は大阪堺市ですのでよく存じ上げておりまして、そういった海外の情報から考えまして、こういったようなことを提言させていただきたいと思えます。決して治水をするなということじゃなくて、より安全な治水政策をするにはどうしたらいいかといったことを、アメリカの失敗の中からこういったことを提言できるかといったことを考えてまいりました。

基本的にはダムというのは寿命があるということは否定できないと思えます。といいますのは、いくらコンクリート強度、これはもういろんなトンネルで崩壊していますけれども、実際には補修といったものをし続けていくことによってかなり寿命を延ばすということはわかっております。

じゃその補修費用をいつまで払い続けられるのだということで、B / Cの効果で出ていますが、50年間の補修費用ということになっています。じゃそれ以降はどうなっているのか、その費用は担保されているのか、その辺がはっきり明確になってないということです。地元からそういったダムを要望する以上は、永劫、100年、200年といったような補修費用というものを必ず担保するように要求すべきではないかということがいえます。

最終的には、ダムは100年で堆砂によって寿命が尽きます。実際には、日本のダムの多くは、その倍以上のスピードで堆砂は進行していますので、50年がせいぜいという寿命だと思います。要は、寿命が尽きて、つまり治水の用がなくなったダム、それに対していつまで補修費用を払い続けなければいけないんだということは、ほかの府民に対して納得いく説明はできるのかということが言われると思います。

(スライド)

これが既にアメリカではもう築造してもうかなり長い年月がたったダムがそうなんです。要は、法人所有のダムというのは、ほとんどそういった補修費用を払い続けられなくて、手放しちゃって、もうどうしようもなくなっていると。そういったダム

が要は強度を失って崩落する、実際に人災を招いているといった状況があるわけです。ですから、治水を考える場合に、50年といたら、本当に孫子せいぜい孫ですね、孫の代にはもう、この治水効果は確かに早い解決策なのかもしれませんが、そのかわり短い運命を持っているということです。

あと、アメリカから学んでいることは、B/Cには確かに環境への影響効果というのは入っておりません。じゃどうするんだということですけれども、基本的には、B/Cというのはそのときの価値で判断すべきではない、というのが現在の欧米での考え方です。

といいますのは、もう過去10年遡ってみれば、現在の榎尾川の地点の自然の価値というのは年々高まっているのは確かです。それを今の価値で測ってしまったら、50年後にはどうなっているんだといったことになりますから、代替案があるのであれば、つまりそういった環境に対しては最優先で考えるべきだと。代替案がない、もうそれしかないよと。確かに人命は最優先すべきですから、代替案がない場合は、みんなの合意の上でそういった選択も可能かと思えますけれども、基本的に今回の場合は、それほど大きな差がないB/Cの代替案がありますから、それに対しては可能ではないかと思っております。

(スライド)

基本的な治水計画の話につきましては、これからほかの方々が発表されますので、私は海外のダムと今回のダム榎尾川ダムをちょっと比較してみました。これがマチリアダムといわれるアメリカの南カリフォルニア州のダムです。そのの堤体がちょっといびつにへこんでますね。これはなぜかといいますと、既にマチリアダムというのは、もう堆砂が進行してしまっていて、50年たちまして、90%堆砂が進行しているということで、これはもう使い物にならない、もう無用の長物で、置いておいたらどんどん維持費がかさんでいくという状態ですので、これを撤去しようということになった。ですけれども、破壊して撤去したら、下流の治水が大変なことになるということで、その堤体の上の一部を少しずつ切り取っているわけです。

(スライド)

では、このマチリアダムがどういった大きさなのかというのを、榎尾川ダムと比較してみました。規模的にはほとんど一緒です。高さ49mと榎尾川ダム45m。貯水容

量に関しましては倍近くあります。これは、榎尾川ダムが位置する場所が、ダムにとって効率のよくない地点、つまり谷間があって、その後ろに大きな広がりがあれば貯水容量を確保できるんですけども、そのような好適地ではないがために、同じような規模であるにもかかわらず榎尾川ダムの方が小さい貯水容量になっているということです。

これを見ていただいて、ほとんど同じような規模です。じゃ、このアメリカのマチリアダムがどういった状況かといいますと、多くのダムがアメリカでは今撤去されています。毎年数十のダムが撤去されておりますけれども、このマチリアダムがやっと最大規模の撤去可能なダムになりつつあるということです。

つまり持続可能なことを考えれば、今回の榎尾川ダム程度、これは国内ではかなり小さな規模のダムになりますけれども、そんなダムですらアメリカはやっと撤去するのに苦戦しているということです。なかなか簡単にはダムは撤去できないということです。といいますのは、中にたまった堆砂が下流に流れますし、しかもちゃんとやらないと、逆に地域住民にとって治水上危険だということになります。中の堆砂がどっと土石流として流れるわけですね。

つまり 50 年後、100 年後の地元地域の安全を考えた場合に、こういったものも覚悟して、しかもこういった撤去費用一番簡単な方法は、ばーんと破壊して 20 億円ぐらいでできる。かなり高額では 120 億円ぐらいかかるというふうないろいろな見積もりがとられています。ですから、建設費用と同じぐらいの撤去費用がかかることも覚悟しておかなければいけないということになりますので、地元の方は、こういったような後世のことの治水の安全ということも考えたら、本当にこの榎尾川ダムがこれしか方法がないのかといったことも考えてほしいと思います。

(スライド)

先ほど言いましたように、ダムの撤去費用、これも建設当初から要求しておく。こういったものは日本ではまだ法律化されておられませんけれども、こういったものをどこかで必ず財源確保しておかないと、将来は孫子から恨まれるということにもなりますし、それがために府民の豊かな自然の地といったものを永遠に失う、つまり再生できないわけですね。100 年後にもう用はなくなったからといって、撤去してもとの緑に戻すということが不可能になるわけです。

あと、ダムの効果。これについてはあまり述べませんけれども、これは、前回の検討委員会のときに意見陳述者の方が述べているお話なんですけれども、基本的に河道を改修することによって、大体 75 年確率の洪水までは対応できますよということを言っています。ダムは 100 年確率までは対応しますよということ言われています。ということは、75 年確率以下の発生が 26%、ちょっとややこしい計算ですけども、100 年確率以下の発生では 36%、つまり 100 年間で 10%しかダムの効果はないということです。

しかも、ダムというのは、先ほど言いましたように、老朽化していくに従って決壊と。それは補修というものは絶対つきまとうわけですけども、そういったもののおそれといったものを考慮するならば、200 年確率で越流という形でダムは設計されますけれども、200 年確率ですぐ決壊ということではないと思いますが、そういったリスクといったものも常につきまとい、つまり 75 年確率から 100 年確率の安全性を高めるがゆえに、そのかわり 200 年確率以上の、要は約 40%の危険性が増えていくというリスクも負う。それを覚悟の上でダムという選択をしなければならないということを考えなければならないと思います。

アメリカでは、必ずダムが決壊したときにどんな被害が及ぶかというシミュレーションをなささいということになってきております。つまり、ダムというのは、必ず寿命があるということは、もう常識化していると。そういったものを考えながら、すぐ下流に人家がいっぱいある、そういった所でこういった計画というのは十分注意してかかるべきだと思います。

以上でございます。

(委員からの質問)

確認したいんですけども、ダムの寿命というのは 50 年というお話がございましたね。

(意見陳述者)

まあ 100 年ですね、堤体から言ったら。

(委員からの質問)

さっきおっしゃいましたよね、ダムに堆砂すれば 50 年という話がありましたけれど

も。

(意見陳述者)

ダムは 100 年の堆砂容量を見込んでおりますよね。それで、ダムの堆砂スピードというのは、いろんな国内のダムを調べたら、約倍のスピードで進んでいるものは結構あるよと。

(委員からの質問)

ありますね。それが何で 50 年ですか。

(意見陳述者)

だから、まあ 50 年かなと。ただ、普通 100 年と考えてもらっても結構です。

(委員からの質問)

いいんですね。

(意見陳述者)

はい。早い場合は 50 年でたまることもあるよということです。

(委員からの質問)

要するに浚渫すれば、別に 100 年もたそうと思えば何ぼでももつわけですね。

(意見陳述者)

まあ、浚渫費用を伴いますけれども。

(委員からの質問)

ですから、老朽化で 50 年でだめなのかという話と、堆砂で 50 年でだめなのかというのをちょっと確認したかったんです。

(意見陳述者)

そうですね。ただ、それは 50 年、100 年、200 年、ダムがあるがゆえに費用が発生するのではないかということです。